

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170500821		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	アン・ベルアミー グループホーム リオン		
所在地	札幌市南区川沿1条1丁目2-30		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アン・ベルアミー グループホームは東側には真駒内公園が広がり、西側には藻岩山を臨むロケーションの良いグループホームです。近くにはスポーツジム、大型スーパー、保育園、病院、専門学校と活気あふれる地域です。また、同じ建物の中には高齢者専用住宅の方々が生活しており、生活感が感じられ、入居者様お一人お一人が共に生活を楽しみ、地域との「絆」を大切にしているグループホームです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170500821&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号
訪問調査日	平成24年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム アン・ベルアミーは、札幌市南区の同法人が運営するグループホーム「さんる一む」、「ちょうちょ」が新しく建設された高齢者施設に併設される形で統合され誕生した。それぞれ1ユニットだったグループホームが2ユニットに移行するに当たり、職員は利用者が混乱なく移転できるよう十分な準備を行い、家族との意見交換を行っている。本当に利用者に必要なものは何かを職員が話し合いながら新しい環境を整備し、現在では両ユニットの利用者同士の交流が生まれるなど、落ち着いた生活の中に様々な取組が行われている。事業所には地域からのボランティアの来訪があり、併設の高齢者住宅の住人との交流など、新しい絆が育まれている。また事業所では、利用者を支えられるだけの存在として扱うのではなく、地域の一員として活動する場も大切にしている。利用者が作り上げた工芸品などの作品を地域の銀行に展示し、豊かな感性や持っている力を知ってもらい、同時に認知症についての理解を広く地域に促す情報提供を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の住み慣れた地域での交流の場を提供し、一人一人の意思及び人格を尊重し、心豊かに日々を送る事を理念にする事を理念に掲げ、日々の申し送り時やカンファレンス時に再確認しています。	法人としての理念をもとに、どのようなケアを実践したいかをユニットごとに定めている。目標や課題について管理者と職員が話し合いながら理念の実現を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長を通じ新しい町内会、高齢者専用住宅の入居者様との交流を持つことが出来つつあります。大型スーパーの催し物に参加したり、専門学校の催し者にも参加出来るよう積極的に働きかけています。	地域住民や、併設高齢者住宅との交流がある。栄養士が中心となり、菓子作りを通じた交流を企画したり、様々なボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様をはじめ、高齢者専用住宅に住まわれている方たちにも運営推進会議を通じて理解や支援の方法を深めていくように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議の中で日常生活の様子、行事活動、事故報告をし、地域の代表者や民生委員、包括支援センター職員、そして他事業所の御家族、入居者の方に参加頂き、意見や要望を聞きカンファレンスを通しサービスの向上に向け努めています。また、消防署職員にも参加して頂きアドバイスを頂いています。	運営推進会議は定期的開催している。参加者に対し認知症への理解を深める取り組みや、事業所の防災の取り組みなど、運営に関する幅広い話題を取り上げている。議事録は全家族に送付し、事業所の取り組みを伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は札幌市や各区の連絡会議に出席し他事業所の方々との交流や情報交換を行いながらサービスの質の向上に努めています。また、市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	法人担当部署が行政との連絡を行い、制度の改定や適切な運営などの情報を収集している。また、管理者が連絡会議等でネットワークを構築し、多くの機関との連携を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、学ぶ機会がありました。入居者様の意思を尊重し尊厳を持って接する事を常に心掛けています。玄関は日中は開放しており、入居者様やご家族にも自由に出入りして頂いています。	定期的な職員全員が身体拘束の研修を受講し、日々のケアについて振り返る機会を持っている。利用者が自由な生活を送ることができるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人独自の年間研修計画の中で全員が研修を受けられるようにしています。職員は自己研磨と専門性の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	去年まで活用されていましたが、現在活用されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って1ページ1ページ説明させて頂き、入居者やご家族の不安や疑問点をお聞きして、理解して頂けることに努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行動、言動、表情により、その方の思いをくみ取る努力をし、カンファレンスや申し送りで情報交換を行い、ケアプランに反映し、又、運営推進会議の席にも入居者の方々に参加して頂き、思いを表現して頂けるよう努めています。運営推進会議では苦情、意見、要望について解答し報告をしています。	定期的にアンケートを実施し、運営の改善に活かすとともに結果を公表している。アンケート結果は系列の事業所とも共有し、多様な意向を把握できるようにしている。また、家族の来訪時にも利用者の暮らしぶりを丁寧に伝え、家族の希望やアドバイスを運営に活かすよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH事業室中心に月一回管理者が集まり意見交換、情報交換を行って問題点については迅速に解決し、サービス向上に努め、年2回自己申告書により、職員の意見や提案を聞く機会があります。	グループホームの移動に関する準備や開設後の業務について、利用者の状況を良く理解している職員からの意見を重視しながら行った。職員の視点を大切にした運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己申告書で個々の努力等を述べる機会があり、面接も併せて行います。資格取得後は資格手当が支給され、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報を収集し、内部研修の年間計画を立て、職員の段階に応じて多くの職員が受講出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回職員が交流する機会を作っています。また、相互に訪問しあったり、同じ催しに複数の事業室が参加することで、交流を深める事に取り組んでいます。研修会等ではグループワークを通じ職員同士が親睦を深め、サービスの質の向上に向けて取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	入居前にご本人に会ってお話を伺ったり、ご家族から情報を頂いたりとお話する機会を作らせて頂く中で気持ちを受け止められるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご苦勞、困っている事、不安に思っていること等話していただけるよう、職員、エリアマネージャーと相談しながらご家族の思っている事、望んでいる事に取り組んでいくよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な取り組みが必要と思われる相談者には柔軟な対応をするために他の事業者のサービス利用も含めた対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で人生を歩んでこられ、得た知識を教えて頂くことばかりです。残された知識、力を大切に、感謝の気持ちを伝える事で、自信を持たれさらに心身の活性化に繋げて行けるように努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の方も一緒に参加出来る行事を計画したり、訪問時に日々の様子をお伝えし変化のある時は連絡をさせて頂いたり、毎月通信を発行しご家族と入居者様のパイプ役になるよう努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、友人、知人の来訪時にはゆっくりお部屋で過ごして頂いています。電話でも好きな時間にお話されており、これからも途切れないよう努めていきます。	事業所には法人の循環バスが立ち寄るため、家族や友人の来訪時にも利用できる。利用者の友人宅への外出や宗教的な習慣の継続の支援にも配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌やゲームや、お手伝いを通して入居者同士が協力しあったり、アドバイスされたり、やさしさを見る事ができます。体操やティータイムにはテーブルを囲みゆっくりお話を楽しむ時間があります。職員も一緒に席に入り関わりあう事に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療施設に入院されても入居者様と一緒にお見舞いに行き、馴染みの関係を継続する様に努めています。また、退去後もサービスが途切れないよう各関係機関との連携を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じてケアプランの見直しを行っています。日々の生活の中でご本人の希望、意向を十分に把握し、それに沿ったケアに努めています。意思表示が難しい方へはご本人の立場を考えながら、表情や仕草の中から気持ちを汲み取る様努めています。	職員は利用者の個性を認識し、笑顔がみられる場面を検討している。センター方式のアセスメントを活用し、利用者の暮らしの中から集められた希望や、意向の把握が難しい利用者は本人本位の検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報を集めたり日々会話の中から生活歴、環境、交友関係等を探りケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者さま9名の所在を確認し心身の状態の変化を見逃さず職員全員で情報共有し、申し送りやカンファレンスを重視しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎の計画作成、その間に評価とモニタリングをなるべく全員で行いケアのあり方を話し合っています。ご本人、ご家族様の要望を聞きながら入居者様がその方らしい生活が出来るようお手伝いするケアプランを作成しています。	利用者一人ひとりの願いを実現できるよう、生活歴を含めて検討し安心して暮らすことができる支援となるよう職員が話し合いを行っている。計画とその後のモニタリング等の仕組みが多職種により実効的に整えられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの気づきや工夫の実践は情報共有し、実践し、結果をカンファレンスし日々のケアや介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の代行、買い物の代行など柔軟な支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方や町内会との日々の交流を図ることで催し物や活動にも積極的に参加出来る様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回看護師による健康管理、月2回の主治医の訪問診察により馴染みの関係が出来ており、個人の思いにも対応出来ています。緊急時や24時間いつでも相談できる体制が整っています。	事業所の提携医とともに、利用者が希望する医療への受診支援を行っている。どちらの場合でも、利用者の日々の様子や服薬状況などを医師に適切に伝え、受診結果は家族へ伝えられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問で入居者の方の健康状態の報告、相談を行っています。24時間体制で対応し、医師や他の医療機関とのパイプ役となっただけです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員と連携しながら、ご家族からの情報やご本人との面会を行い、早期退院に向け話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	ご本人、ご家族の意向を把握し、出来る限りの支援をご家族の協力を得ながら取り組んでいます。	利用者を家族とともに支え、相互に話し合いながら希望に寄り添うよう取り組んでいる。医療との協力関係を築き、事業所として職員の育成を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の緊急時のマニュアル等の熟読と内外の実践研修等で、身に付けています。2ヶ月ごと合同カンファ時実践研修しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の応援体制は、整っています。避難訓練も年2回定期的に行っています。毎日、防火点検チェック表をつけ火災を出さない取り組みをしています。	避難訓練は、併設の高齢者住宅とともに実施し、非常災害時の法人内での連携も確立している。地震等の災害も視野に入れた訓練の計画がある。	事業所が移転したため、運営推進会議等を通じた地域との関係構築の継続と、現在検討されている大規模災害に備えた備蓄品の選定についても推進が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の申し送りは場所を選びプライバシーを守ります。人生の先輩に対する尊敬の念を持って日々のケアに努めています。	職員は、生活を共にする中で許しあえる親和感と、ケアの専門家としての視点を忘れずに尊厳のある暮らしを支えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が全て決定して思いや希望も表現出来るような場面作り、一緒に考えたりサインを見逃さないよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、レクリエーション等一人一人のペース、体調、思いに沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び、身支度は、ご本人が自由に選び一緒に買い物へ行ったり、ご家族の協力を得ながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しみになるように好みや食べやすい工夫したり、準備や後片付けを入居者様と職員とで一緒に行っています。	食事の支度から後片付けまでを生活の中の一連の流れと捉え、利用者と職員と一緒に行動することで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の生活習慣の上に栄養バランスと水分量が十分に摂取できるように支援しています。水分量、食事はチェックして記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの充実のために定期的な歯科の訪問診察を受けたり、日々の歯磨き、義歯のケアを支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや習慣を考慮しトイレでの排泄や自立に向けて支援しています。	利用者の排泄パターンを把握し、コミュニケーションを大切にしながらケアを行っている。職員は自立の視点を持ち、利用者ができない部分の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況の把握と、運動や十分な水分量、食事の工夫等、予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様がリラックスして楽しめるよう一人一人の思いや希望に沿って支援しています。	利用者ごとに週2～3回の入浴を実施している。利用者が安心、安楽に入浴できるよう検討し、無理がないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調、習慣をもとに安心して休める環境を提供しています。入床や起床の無理強いせず、夜間ぐっすり眠ることが出来るよう体操や外気浴など日中の活動を通して生活リズムが整うよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についての知識を深め、服薬の支援と症状の変化に注意し観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみや喜びを把握し毎日の暮らしの中に生活歴を生かした役割を見出せるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、ゴミ捨てや新聞を取りに一階のエントランスまで降りたり、大型スーパーには日常的に買い物に行っています。ユニット間で協力しながら大型バスを利用し出かけています。	日常的な外出を意識的に行うようにしており、介護計画にも記載し支援している利用者もいる。外出行事なども実施しており、閉じこもりがちにならないように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の大型スーパーで御自分の食べたい物を選んで購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも利用して頂いています。御自分で出来ない方へは職員が取り次ぎをお手伝いしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量は皆さんで相談しながら調節します。季節の花や壁飾りなどで、季節感を出し、居心地の良い空間作りに努めています。	2つのユニット間の居間の仕切りは取り外すことができ、双方の利用者が自由に交流することができる。また絵画や調度品などとともに解放感のある大きな窓からは花火大会や、自然豊かな四季の景色を望むことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルやソファがあり、それぞれにくつろいでお過ごしです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ冷蔵庫、写真や人形等それぞれに持ち込まれ、安心して過ごして頂けるよう配慮しています。	利用者それぞれの使い慣れた家具や趣味の品々を居室に配している。利用者のその時々状況に応じ、混乱なく安心して暮らせるように職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	得意な事や残された力を生かしていける様職員一同心がけています。廊下やトイレ、お風呂には、手摺りを設置し、お一人での移動が安全に出来るよう配慮しています。		